

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	山形村社会福祉協議会	代表者	山口 隆也	法人・事業所の特徴	法人としては、県内の社協と情報交換をしたり研修会を行い地域福祉や介護保険のサービスを提供している。 事業所としては近隣の同事業所との勉強会・研修会・情報交換の機会を持ち、また医療機関やボランティアとの連携をはかりながら、住み慣れた地域で安心して生活ができるよう「通い」「訪問」「宿泊」を組み合わせ柔軟な対応を行っている。
事業所名	小規模多機能型居宅介護事業所 すばる	管理者	塩原ゆかり		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	1人	2人	0人	1人	0人	1人	1人	0人	7人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	テーマごとの改善計画を具体的に立てることによって、職員が意識しやすくなる	改善計画を1度周知したのみで、継続して意識することができなかった	「ほとんどできていない」と答えた人が、特定の職員ではないかと感じた テーマごとの改善計画をわかりやすく提示することで職員が意識しやすくなるのでは 資格については、向上心を持ってもらいたいと思います	改善計画を項目ごと1カ月ごとに意識して支援する 1カ月支援後は、振り返りを行う
B. 事業所のしつらえ・環境	感染予防対策を強化したうえで、保健センターに来た際は、事業所の見学を誘い事業所のしつらえ・環境をみてもらう	コロナ禍もありか見学に誘うことができなかった	・委員になるまで中に入ったことがなく、どんな所かわからなかった。外部の人にも知ってもらおう工夫としては ・民間企業の様子を参考にしようか ・事業所の頑張りでは難しい面があると思う	家族、外部の方へ行事への参加を募りしつらえを見てもらい意見を聞く 引き続き環境整備に努める
C. 事業所と地域のかかわり	行事やイベントが開催される地区に住む職員は、その行事やイベントに参加することで地域の方と話す機会をふやす	コロナ禍の為行事そのものがなく、職員が住む地域への参加はできませんでした 環境的に地域と関わりを持つことが難しい	・情報発信は、高齢者はネットなど電子的な物はわからない。すばるのタイムを民生委員会などで配布することで様子を知ってもらえるのでは ・いちいの里へお風呂に入りに来る方へ行事へのお誘いの掲示をしてはどうか	ボランティア、いちいの里に来る方に掲示板などを使い、すばるのイベントへの参加を募りすばるを知ってもらう

<p>D. 地域に出向いて 本人の暮らしを 支える取組み</p>	<p>コロナ禍で地域に出向くことができなくても、利用者が地域と繋がりを感じる取り組みを考える</p>	<p>レクリエーションなどで以前の暮らしなどを話題にすることや、七夕、繭玉作りなどを通し、繋がりを感じられるようにしました</p>	<p>・コロナ禍で地域の行事がなかった</p>	<p>すばるで昔からの地域で行なわれた行事を継続しつつ、地域の行事に参加できるように情報を集め、参加できるようにする利用者と地域との繋がりがきれないように支援する</p>
<p>E. 運営推進会議を 活かした取組み</p>	<p>感染予防対策の強化を図り会議が開催できるようにすることで意見を聞くことができる 開催が難しい状況であれば電話で意見を聞くこともできる</p>	<p>・会議の開催時意見をきくことができました ・コロナ禍でもあり短時間での会議開催の為事例検討まではできませんでした ・新しく委員になっていただいた方への評価への説明が不足していた</p>	<p>・ときどき来るだけで様子もわからない。評価といっても難しい</p>	<p>運営推進会議で出た意見を会議の議題にあげ、改善に努める</p>
<p>F. 事業所の 防災・災害対策</p>	<p>会議の中で防災計画の話をする 避難訓練の日程を伝え参加を誘う</p>	<p>・避難訓練の日程を伝えることはできず訓練に参加に誘うことはできませんでした ・防災計画については話題に上りましたが、具体的な話まではできていません</p>	<p>・河川が近く豪雨時の具体的な対策が必要</p>	<p>災害計画を具体的に作成、避難訓練のなかに取り入れる</p>

